



廃船置場(部分)



旅と 絵画

渋谷
円吉

Enkichi Shibuya

2025.4.1 TUE __ 6.8 SUN

10:00 __ 17:00 (最終入場は16:30)

文教の杜ながい 旧丸大扇屋 / 内蔵・新蔵

観覧料: 無料

—長井ゆかりの表現者

苦難の先で花開いた
画業の軌跡をたどる



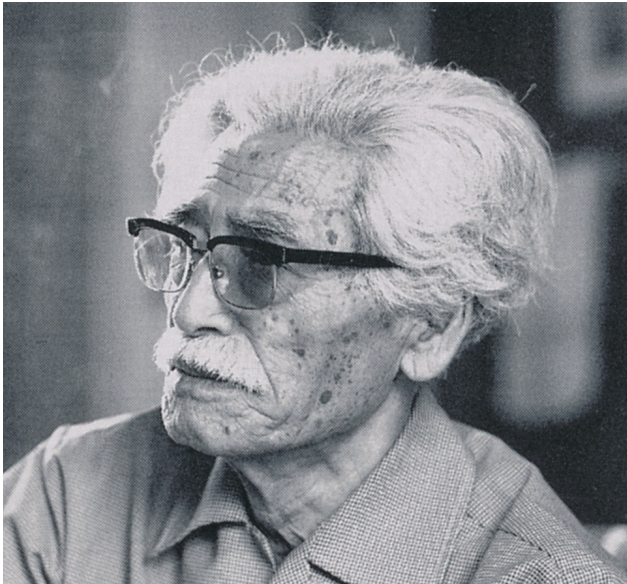
長井ゆかりの表現者
渋谷円吉・旅と絵画

2025年 4月1日(火曜日)～6月8日(日曜日)
10時～17時(入館は16:30まで)
文教の杜ながい 旧丸大扇屋 内蔵・新蔵
観覧料:無料
※休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)

1.趣旨

太平洋戦争から復員後の30代半ばから画業を始めた渋谷円吉は、以降抽象画、バラの花、フランスの古城、みずみずしい裸婦像、雄大な山岳風景など、生活や旅から得たインスピレーションを起点に、多様なモチーフを淡く豊かな色調で詩情豊かに表現しました。本展では、昨年度長井市に寄贈された大作を中心に、今も市民に愛される郷土作家の画業をたどります。

2.出品作家



洋画家

しぶや えんきち

渋谷 円吉 Enkichi Shibuya

長井市寺泉の豪農に生まれる。幼少時から画才を認められるも美術の道へ進むことは許されず、母親や弟妹を助けながら苦難の生活を送る。太平洋戦争時に徴兵され、帰還後に戦没者の肖像を描き生活の手立てとしたが、本格的に画業を志して洋画家・土田文雄に師事し、国画会展に出品。のちに会員となる。フランスや北海道を旅し、様々に画風を変えながら山形市を拠点に制作を続けた。詩人の真壁仁や、洋画家の真下慶治とも交流がある。

3.年譜

- 1912年 長井市寺泉に生まれる
- 1945年 終戦後、戦地から長井市に帰還。生活のため戦没者の肖像画を描く
- 1954年 国画会会員・土田文雄に師事
- 1955年 第29回国展に出品し入選。以来毎回入選
- 1963年 国画会会友に推挙され無鑑査となる
- 1972年 外遊(南フランス)
- 1976年 国画会会員に推挙(国展審査員)この間各地に於いて個展十数回
- 1977年 外遊(北海道)
- 1983年 外遊(中国)
- 1994年 長井市西根地区配水池の壁画原画を制作
- 1995年 渋谷円吉画集を出版(発行/スタジオ・ワン)
- 2004年 山形市で没



Ⅳ. 展覧会の見どころ

1) 旅を起点にした多様な表現に触れる

40代で土田文雄に師事して以降に本格的に画業を始めた渋谷は、初期の抽象画に始まり、郷土長井の風景や、フランス旅行を経ての古城シリーズ、北海道旅行を経ての廃船シリーズや裸婦シリーズなど、モチーフや画風が次々に変化していきました。本展ではその変遷をたどりながら、そこに通底する作家性や人生について思いをさせ、渋谷円吉の芸術観を探ります。

2) 長井市の新収蔵品を初公開

渋谷は国展に出品するために制作された大作と並行して、家庭を飾るのに適した小ぶりの作品も多く手がけました。近年、それら大作から小作品まで多くの作品が市に新規収蔵されました。本展はその作品を中心に構成、初公開する機会となります。

Ⅴ. 出品作品



1



3



2



4



5

1_ 館 / 2_ 椅子の女 / 3_ 舟 / 4_ 夕なぎ / 5_ 残影 (B)



アトリエ風景



I 6. 展覧会概要

| | |
|-----|--------------------------|
| 事業名 | 長井ゆかりの表現者 渋谷円吉・旅と絵画 |
| 出品者 | 渋谷 円吉 |
| 期日 | 2025年4月1日(火曜日)～6月8日(日曜日) |
| 休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日) |
| 時間 | 10時 - 17時(入館は16:30まで) |
| 場所 | 文教の杜ながい 旧丸大扇屋 内蔵・新蔵 |
| 観覧料 | 無料 |
| 主催 | 一般財団法人文教の杜ながい |

【事業に関するお問い合わせは下記までお願いします】

(一財)文教の杜ながい 事務局長 後藤拓朗

住所:〒993-0086 山形県長井市十日町1-11-7

電話:0238-88-4151 FAX 0238-88-4045

メール:bunkyou@e.jan.ne.jp

ホームページ:<https://www.bunkyounomori.com>